

■ 脊柱側弯症に対する瀬本・永野式夜間装具の開発

第 46 回日本側弯症学会発表（2012 年）

今津病院 小児・側弯センター

瀬本喜啓

大阪医科大学 整形外科科学教室

藤原憲太

有限会社 永野義肢

永野 徹、金崎秀徳、宮部昌洋、永野宏佳

■ 目的

手術適応である特発性側弯症患者に対して、手術を待つ間の装具として、瀬本永野式夜間装具（SNNB）を開発し治療装具として使用した。

また未成熟で 35 度から 45 度の側弯症患者のうち、全日（24 時間）装具の矯正力が十分に得られない症例に対しても、夜間のより強力な矯正を得るために瀬本永野式夜間装具を使用したので報告する。

■ 瀬本永野式夜間装具の基本仕様

代表的な夜間装具のチャールストン装具は、主弯曲を矯正するため極端に側方への屈曲を行うが、バランスを崩した状態で就寝することは患者に苦痛をもたらし、寝返りなどの生理的な運動を

妨げることも危惧される。

また頭側を極度に屈曲して矯正するため二重弯曲では下のカーブの弯曲矯正が不十分となる傾向にある。瀬本永野式夜間装具はバランスを保った状態で最大限に矯正を行えるように開発した装具である。

圧迫パッドが固定されている装具では矯正力を徐々に増加させるのは困難で、調整も難しかった。瀬本永野式夜間装具はベルトで圧迫力を調整することにより、矯正力を徐々に増加させることが可能である。

背部には、寝返りを容易とするため、やや硬めのスポンジを貼付している。胸部の前方は、ベルトで胸を圧迫しないよう両端を前方に張り出している。



瀬本永野式夜間装具はバランスを保った状態で最大限に矯正を行えるように開発した装具である。





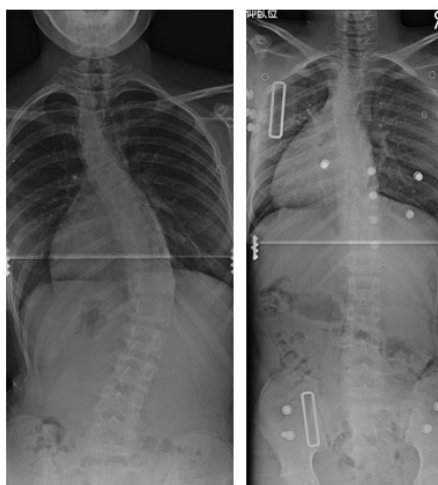
ベルトで圧迫力を調整することが可能である。
また圧迫パッドは可撓性があり適度な圧迫力を持続することができる。



胸部の前方は、ベルトで胸を圧迫しないよう両端を前方に張り出している。



初期矯正率は平均77%
(43% - 100%)



■考察

全日装具（24時間つける装具）は、治療を途中でやめてしまう患者が増加しつつあるが、その大きな原因は学校への装着の困難さである。

いまだ側弯症における夜間装具の弯曲進行予防効果は明らかではないが、今後全日装具がつけられない患者を救済する装具として使用できるもの

と考える。

■瀬本永野式夜間装具の使用結果

当初強力な矯正力のため、痛みが出て装具をつけられないのではないかと心配していたが、現在までに本装具を使用した57名のうち、装具がつけられなかった患者は1名のみであった。

成熟後に急速に進行した症例

16歳2か月



17歳2か月



すでに成熟していると考えられる症例でも、手術を決心するまでの待機期間に弯曲が進行する例もある。



■まとめ

- 1) 瀬本永野式夜間装具 (SNNB) を開発した。
- 2) 手術を待つ間の装具や、全日装具(24時間装具)を学校に着けていけない患者などに有用であると考ええる。